



しほろ

平成25年11月 No.150

議会だより

■発行／士幌町議会 ■編集／士幌町議会広報特別委員会
ホームページアドレス <http://www.shihoro.jp/assembly/>



恒例のポテトチップス早食いコンテスト(10月20日しほろ収穫祭)

9月定例会

審議した議案ほか……………2ページ

一般質問

「泊原発の再稼働の是非について」
ほか3件…4ページ

平成24年度決算審査質疑 ……7ページ

かけ橋

「全国消防救助技術大会を終えて」
士幌消防署 消防士 小野内章人さん
消防士 長沢 拓也さん ……10ページ



しほろ牛ステーキは今年も大行列

平成25年
第3回
定例会

平成24年度一般会計ほか7特別・1事業会計

歳出総額112億円の決算を認定可決



9月13日(金)午後6時から、ナイター議会で行われた
決算審査特別委員会(秋間紘一 委員長)

第3回定例会が、9月6日から24日までの会期で開会。

初日は、町長および教育長からの行政報告、例月出納検査報告後、3件の専決処分と5議案を審議。

10日は、議員4名から一般質問が行われた後、一般会計ほか6会計の補正予算を審議。その後、平成24年度全会計の歳入歳出決算にかかる決算審査特別委員会を設置し19日まで審査。(質疑の要約は7ページに掲載)

19日に本会議を再開し、全会計の歳入歳出決算認定後、会議案1件を審議。すべての議件を原案どおり可決し19日に閉会した。

主な審議内容は、次のとおり。

条例の制定

●子ども・子育て会議条例

子ども・子育て支援法に基づき、土幌町子ども・子育て会議を設置するため必要な事項(組織・運営など)を定めるもの。

▽施行期日 平成25年10月1日

※子ども・子育て会議とは、法に基づき、土幌町の子ども・子育て支援事業計画や支援施策の推進のために必要なことを調査・審議する機関。

第3回定例会で審議・可決等された案件

| | | | | | |
|----------------|--|--------|----|-----|-----|
| ●報告 | 町長行政報告 例月出納検査報告 | 教育行政報告 | 結果 | 了承 | 賛・反 |
| ●条例の制定 | 子ども・子育て会議条例 | | 結果 | 賛・反 | 賛・反 |
| ●条例の一部改正 | 町営住宅管理条例 | | 可決 | 賛・反 | 賛・反 |
| ●人事・一般議案 | 教育委員会委員の任命 北海道後期高齢者医療広域連合規約変更に関する協議について 平成25年度農作物共済無事戻しについて 平成25年度畑作物共済無事戻しについて 北海道市町村総合事務組合規約の変更について(専決処分報告) 議員派遣の件 | | 結果 | 賛・反 | 賛・反 |
| ●平成25年度各会計補正予算 | 一般会計(専決処分第2号) 農業共済事業特別会計(専決処分第1号) 一般会計(第3号) 国民健康保険事業特別会計(第1号) 介護保険事業特別会計(第1号) 介護サービス事業特別会計(第1号) 簡易水道事業特別会計(第1号) 公共下水道事業特別会計(第1号) 農業共済事業特別会計(第2号) | | 結果 | 賛・反 | 賛・反 |
| ●平成24年度決算認定 | 一般会計 国民健康保険事業特別会計 後期高齢者医療事業特別会計 介護保険事業特別会計 介護保険サービス事業特別会計 簡易水道事業特別会計 公共下水道事業特別会計 農業共済事業特別会計 国民健康保険病院事業会計 | | 結果 | 賛・反 | 賛・反 |

人事

●教育委員の任命



任期満了を迎える宮本勢津子委員の後任として、時光早苗さん（高德）の任命に同意。

●子ども・子育て支援事業計画
画一ズ調査委託
210万円

【労働費】

●緊急雇用対策事業委託料
1096万円

【農林業費】

●農業振興施設等整備事業補助金
1350万円

●十勝大雪森林組合出資金
69万円

【商工費】

●道の駅しほろ温泉施設設備改修工事
75万円

●プラザ緑風施設備品購入費
220万円

【教育費】

●小学校理科教材購入費
521万円

●中学校図書および理科教材購入費
54万円

●全日本女子バレーチーム合宿受入事業助成金
350万円

【公有財産】

●土地購入費
613万円

【災害復旧費】

●道路災害復旧工事
2340万円

一般会計補正予算

歳入歳出の総額にそれぞれ4175万5千円を追加し、総額7億7480万2千円とする補正予算を可決。

主な補正内容は次のとおり。

【総務費】

●庁舎修繕料
231万円

●合併処理浄化槽設置事業助成金
150万円

●高齢者冬期就労対策事業委託料
323万円

●子ども・子育て会議委員報酬・費用弁償（10人）
15万円

6月定例会以降の経過について、小林康雄町長より報告がありましたので、要約してお知らせします。

下 P P講演会
町内外から多数の参加

8月30日に慶応義塾大学経済学部教授、金子勝氏を講師に迎え講演会を開催。今後重要な局面を迎える中、交渉の動向を注視しつつ重要品目が守られない場合、脱退する国内世論を高める取り組みに全力を傾注していく。

太 陽光発電所
6月に工事着手

6月21日に関係者30名が出席し建設工事安全祈願祭が執り行われた。工事は整地と南側1列の太陽光パネル設置が終了し、残り8列が急ピッチで進められている。8月末の進捗率は35%となっている。

暴 力団排除条例
7月1日より施行

帯広警察署と連携を強化し、

行政報告

公共事業および公共施設の利用等から暴力団等を排除し、町民の安全で平穏な生活を確保する。

風 疹発生予防緊急措置
8月1日開始

対象者を妊娠中の女性の夫および19歳以上50歳未満の女性で妊娠を希望または予定している住民として、抗体検査と予防接種費用の一部助成を開始した。抗体検査は町国保病院で実施し、予防接種が必要と判断された方が費用助成の対象となる。

商 工観光活性化専門員9月から配置

商工観光の振興を図るため、産業振興課に専門員を非常勤で配置。町が運営する観光施設および第二セクター、新規点基本計画の策定などについて相談、助言を行うこととし、相談員のこれまでの知識、経験を活かして商工観光の活性化を図っていく。

専門員は、前JA士幌町購買部長 野久和典氏。

議会日誌

「7月」

24日 広報特別委員会
25日 TPP交渉参加に抗議し即時撤退を求める北海道集会
29日 総務文教常任委員会
30日 北十勝4町町長議長意見交換会

「8月」

2日 広報特別委員会
6日 老人・障がい者合同大運動会
7日 広報特別委員会
18日 産業厚生常任委員会
22日 議会運営委員会
27日 十勝町村議会議長研修会

「9月」

6日 第3回定例会（19日全員協議会）
10日 総務文教常任委員会
産業厚生常任委員会
決算審査特別委員会
士幌町教育研究大会兼複式教育研究大会

| | |
|----------|--------------------------|
| 和田 鶴三 議員 | 泊原発再稼働の是非について |
| 清水 秀雄 議員 | TPP反対運動について |
| 大西 米明 議員 | 士幌町役場内の非正規職員の実態について |
| 中村 貢 議員 | 生活保護費(生活扶助費基準額)の引き下げについて |

泊原発

再稼働・原発輸出に反対

より安全性の高いエネルギーへ転換



和田鶴三 議員

質問 原発は、技術的に未完成で苛酷事故が避けられない構造的欠陥を持ち、使用済み核燃料の処分、処理技術も未確立である。原発事故は、地域住民の生命財産に直接かわることであり避けて通ることのできない問題である。

北海道は自然の宝庫であり、再生可能な自然エネルギーの利用をさらに進めながら、泊原発再稼働申請に反

対し、日本の原発輸出反対の運動を呼びかけていくときと考えるが。

小林町長答弁

今後のエネルギーについては再生可能エネルギーを始めとする、より安全性の高いエネルギーへと転換をしていくべきものと考え



町は再生可能エネルギーの地産地消で地域活性化を(建設中のメガソーラー発電所)

え、また、事故を起こした国の原発を輸出することについても奇異に感じている。

一方、産業経済の振興、国民生活の安定においても電気を安定的に確保することも大きな課題であり、電気の需要と供給のバランスを確保しながらエネルギー政策が推進されるべきものと認識している。いずれにしても原発再稼働については安全基準が確実に担保されなければならないもの

と思うところであり、その姿勢で発信をしていきたい。

質問

本町でも原子力発電に対する有識者による講演会を開催するなど、人類に及ぼす影響を知ってもらおう場をつくっていくべきでは。

小林町長答弁

近年の自然災害や原発を含めた地域防災については、町を挙げて取り組まなければならない課題であり、今後研修や町民議論ができるよう検討したい。

TPP

今後の反対運動は

管内関係団体連絡会議と連携し取り組み



清水秀雄 議員

質問 安倍政権は7月23日、多くの反対世論を無視してTPP交渉に参加した。

徹底した秘密交渉のうえ、国益の中身すらいまだに不明で、何を主張しているか国民

に知らされないTPP交渉は、その危険な本質を広く知らせ、反TPPの意思を安倍政権に突きつけることが重要だと考えるが、町長は今後の反対運動をどのように考えているか。

小林町長答弁

政府は、交渉の中で重要5項目の関税を守ることを表明しているが、守秘義務によって詳細が明らかに

平成25年 第3回定例会

一般質問

9月定例会では、4人の議員が一般質問に登壇し理事者の考えをたどりました。
内容を要約してお知らせします。全文は議会ホームページに掲載します(12月中旬予定)

されないまま交渉が終了し、国民的議論がないまま国会において条約批准の判断がなされるのではないかと危惧している。

十勝においては、7月末に TPP 問題を考える十勝管内関係団体連絡会議が管内市町村からの緊急決議文を取りまとめ政府に提出しており、本町は農業関係機関や商工会など7機関、団体による連名で提出した。

TPP による影響は、慶應義塾大学の金子勝教授を招いての講演会でも指摘されたところであり、安全な食料を安定的に確保する食料安保、国民皆保険など国民医療の擁護、国や地方自治体の主権確立と国益の確保などの視点をもち、十勝管内関係団体連絡会議と連携し、取り組みを展開していきたい。

質問 秘密交渉で全く内容が知らされないまま国会批准



TPP 交渉参加に抗議し即時撤退を求める北海道集会(7月25日)

に持ち込まれたら、我々は断固として阻止していかねばという立場にある。食料主権を守る、国民主権を守るという今後の反対運動をどのように計画しているか。

小林町長答弁 今後、国会の条約批准が出てくる中で、国益が守られない場合は阻止できるよう、今後も農対本部や関係機関と十分連携しながらさまざまな取り組みをしていきたい。

町職員雇用

臨時職員の待遇改善を

基準を設け人事管理している



大西米明 議員

質問 平成24年就業構造基本調査によると、非正規労働者の雇用者全体に占める割合は38・2%で過去最高を更新し、北海道は42・8%で全国2番目の高さであった。

正職員に比べ賃金が安く身分が不安定な非正規労働者は将来の生活設計を見通せない人も多く、社会不安を招きかねないと思うが、土幌町役場の内非正規職員の実態と待遇はどのようになっているのか。

小林町長答弁 町の非正規職員(臨時職員第1種・第2種)は76名で、職員総数365名に対する割合は20・8%である。基本賃金は職員の行政職給料表の1、2級の給料額をもとに月平均勤務日数21

日で割り返した金額を日額単価としている。各種手当については、期末手当が12月1回の支給で職員の支給率2・05月と同じ月数で支給。6月手当と寒冷地手当は制度がない。扶養、住居、通勤等の手当は職員と同様の制度で支給している。

財政健全化の観点から正規職員数の増加は厳しい状況であり、臨時職員による対応をせざるを得ない。

質問 臨時職員の賃金が安いのではないかとと思うが、人事院勧告に基づく職員給与を基準としているとのことであれば、せめて臨時職員1種から準職員に上げる期間を短かくする手立てはとれないのか。

小林町長答弁 臨時職員を準職員に上げる基準としては、介護職員は介護福祉士の資格を持ち1年経過した者、保育士

は保育士と幼稚園教諭の2つの資格を持ち3年経過した者で勤務評価をして準職員に上げている。保育士については要支援児の人数により加配しているが、その年によって要支援児の数が変わることもあり、人事管理上、何年か先の見通しを立て採用していかなければならぬ現状で、3年としている。



臨時職員の比率が多い保育士

生活保護費

引き下げに対する町の支援は

実態を見ながら対応したい



中村 貢 議員

である生活扶助費を最大で10%引き下げる予定である。

生活扶助費は食費、被服費、光熱費など日常生活に必要な生活費であり生活は一層厳しくなると思われるが。

質問 生活保護費の引き下げが8月1日から始まり、今後3年間で保護の基本部分

直しは受給者の生活に急激な

小林町長答弁 基準額の見

直しは受給者の生活に急激な

変化を及ぼすことのないように3年程度をかけた段階的に調整される。改正による町の生活扶助費の減額世帯は、全支給世帯37世帯のうち34世帯である。減額幅は単身世帯より多人数世帯が大きくなる傾向にある。今後、定期訪問している十勝総合振興局担当職員との情報連絡を密にすることも、生活状況を適切かつきめ細かく配慮しながら町民生活の安定への対応をしていきたい。

質問 町では生活保護者に対し、生活保護費以外でどのような支援をしているのか。

大森保健福祉課長答弁 町

独自の支援として、子供・高齢者のインフルエンザ、高齢者の肺炎球菌ワクチンの予防接種や特定健診などの自己負担無料化、高校就学支援金や福祉灯油の給付対象、日中一時支援事業の利用無料、学童保育所使用料の免除等がある。

小林町長答弁 お金がない

から教育や医療・介護などが受けられないということがないような措置を取り組んでいきたい。

— 傍聴者の皆さんに聞きました —

開かれた議会を目指すため、議会では傍聴された方に毎回アンケート方式でご意見等をお聞きしています。

9月定例会でアンケートにお答えいただいた内容から、一部要約してご紹介させていただきます。

○町の将来方向の基本に関する話を聞きたくて何回も傍聴に来ているが、質疑応答でチャンスがあるのにこの点に触れないのは残念だ。町職員は、町民の実態を良く知る努力をしてほしい。

(70代 男性)

○小さな自治体だからこそ機動力があり、町民の要望を吸い上げることができるのだと思う。基幹産業を中心に若い人達が元気に働く町づくりが、これからも可能なものになるようTPP断固反対・阻止に全力を注いでほしい。

質問ですが、土幌町内の全労働者のうち非正規雇用職員の割合はどのくらいなのでしょう。

(50代 女性)

◆土幌町内の非正規雇用職員の割合をご質問いただきましたが、従業者総数2,525人のうち雇用者は2,143人。そのうち常用雇用者は1,876人で、うち1,105人が正職員です。常用雇用者に対する正職員以外771人の割合は**41.1%**になります。

※資料：総務省「平成24年経済センサス（活動調査）」

平成24年度一般会計ほか8会計

決算審査質疑

第3回定例会で付託された平成24年度各会計決算審査特別委員会（秋間紘一委員長）において、各委員から出された質疑の一部を要約してお知らせします。

一般会計

総務費

広報のマスコミ活用

問 町の行事を、マスコミを活用して幅広く町外へ向けて発信していくべきではないか。

答 町の行事と併せ、町民の皆さんが色々な分野で頑張っていることをマスメディアを通じて発信していくことを今後十分検討したい。また地域の活動なども情報を収集して発信できるように役場全体で取り組みたい。

個人情報公開の運用

問 町内会の高齢者福祉活動において、個人情報保護法により情報が公開されず進まない状況のようである。適正な活用の場合には積極的な情報公開ができないか。

答 本人の同意をもらい公開するのが大原則である。町個人情報保護条例により取り扱いをしているが、福祉を進めるうえで今一度点検をしたい。

チセ・フレップの運営

問 北大生の協力により、以

前にはチセ・フレップで小学生の林間学校が行われていた。最近、北大生から町に貢献したいとの申し入れがあるようだが、小学生の夏休みに北大生との交流を考えるとどうか。

答 北大の恵迪寮自治会とチセ・フレップの管理・運営について毎年打合せ会議を行っている。9月末に会議が開かれるのでその中で協議したい。



35年の歴史があるチセ・フレップ

協働推進事業費の不用額

問 事業費の予算額1191万円に対して227万円の不

用額を出しているが、その要因は。

答 民間交流促進事業（美濃市への民間交流派遣）が未執行であったこと、パートナーシップ事業助成のうち地域の創意工夫で自主的に行う事業に対する助成の申請がなかったことによる不用額である。

消費者生活相談

問 平成23年度から音更町の消費生活相談センターに委託しているが、2年が経過して不都合なことはなかったか。

答 毎年10件くらいの利用で、問題があるとは聞いていない。

問 消費者の中で色々な事件が起きている。町職員も研修を受けているようなので役場内ですぐ対応できる体制を作っているかどうか。

答 詐欺行為は高度化している。町職員と銀行、郵便局が連携して防止できるような連絡体制がとれるよう努力したい。

道内での災害時協定

問 道内の町村間で救助用物資等の協定を結ぶことにより経費節減と数量の確保が十分にできるのではないか。

答 災害時における北海道及び市町村相互の応援に関する協定ならびに環境自治体会議を構成する市町村の災害時における相互支援に関する協定の2つを締結している。



相談は個室でも行われる消費生活センター（音更町共栄コミセン内）

民生費・衛生費

特定健診受診率

問 24年度の特定健診は、農村部では農協の助成金もあり推進活動も行っていたが、受診の伸び率が上がらなかったのはなぜか。

答 24年度の受診率は44・2%で、前年対比3・1%の微増であった。受診への理解を得るため、健康講座の実施や電話での勧奨等、様々な方法で取り組んでいるが、なかなか受診率につながらない。今後も受診率の高い町村に学びながら努力したい。

臨時福祉灯油

問 今年の2月に、灯油高騰のため臨時福祉灯油購入助成が行われたが、もっと早い時期、たとえば毎年12月に助成するようにはどうか。

答 早めに見直しを立て、一番使う時期に効果的に交付で

きるよう検討したい。

子宮頸がんワクチン
副作用の対応

問 子宮頸がんワクチンの副作用が大きな問題になっているが、町の対応はどのようになっているか。

答 国からワクチンを勧めることの制限があつてから、受けたいと希望された場合はリスクを説明することとしている。

労働費・農林業費・商工費

失業対策事業

問 季節労働者冬期雇用対策事業は実施日数が10日間で延べ労働者数212名であったが、経済的に厳しい状況が続いているなか、労働者の希望として日数を増やしてほしいとの声があるが。

答 本町の失業対策事業は他の町村から比べると大きな規模で行っているが、色々なこ

とを検討しながら実施していきたい。

問 若い人が失業対策事業に参加しない状況であり、そういう点も含めて労働者のために対策を考えていく必要があるのでは。

答 失業者がいながらも募集をしても集まらないということもある。町民の生活実態も見ながら推進していきたい。



平成24年度の冬期雇用対策事業

農業者年金加入推進

問 農業者の老後の安心のために農業者年金の制度を周知

し、家族も含めて加入するよう推進してはどうか。

答 24年度の新規加入者は32名で、ここ数年は増えている。掛金は社会保険料控除の対象になるなど制度の周知を徹底し広報活動を行いたい。

国道新ルート
拠点づくり

問 国道新ルートを活かした拠点づくり検討委員会が設置されているが中間報告等はないのか。

答 本年3月ワーキングチームから検討委員会が報告を受けた。建設可能地として、現在の道の駅ピア21、国道241号と274号の合流地、町なかの3カ所で検討を行ったが、いずれも一長一短があつた。

問 検討結果はいつ頃までに出すのか。

答 今年度は基本計画を策定することとしているが、年度末までに一定の方向性を出したい。

土木費

町営住宅の
改修・建て替え

問 公営住宅の建て替えは町では行わないという話があつたが、今後建てかえを随時していくのか、改修・修繕で終わらすのか。

答 町公営住宅等長寿命化計画のもとに平成24年から10年間の検討を行い、80戸程度を取り壊して52戸程度建て替え



国道241号と271号の合流地

する計画を策定した。これらは昭和45年から47年に建てられた極めて古く耐用年数の過ぎている住宅である。



今年度取り壊される公営住宅

教育費

学力向上の取り組み

問 道教委では、全国学力調査において北海道の児童生徒の学力が全国平均を上回る目標を設定しているが、教育委員会ではどのような取り組みをしているか。

答 各学校で改善プランを立てて学力向上に努めている。土

曜学習サポート塾、町独自で少人数指導のための教員配置、夏休み冬休みの学習サポート等の対策を構っている。

町と学校が連携した取り組みの効果は子どもたちの学力向上に着実に結びついている。

学校敷地内の自然林

問 学校林や防風保安林は定期的な管理がされているが、敷地内にある自然林についても害虫等の発生も心配されることから定期的な管理を行うべきではないか。

答 学校と連携を進めながら対策をとっていききたい。



佐倉小学校敷地内の自然林

国保病院会計

希望する医師の診察

問 受付窓口で診察希望の医師を伝えただが、違う医師の診察になったということがあったが、

答 診察予約が多く待ち時間が長くなる場合、他の医師の診察にしてはどうかと患者さんに確認をしてから他の医師に診てもらったことがある。その時、断れない方もいたようで後からそういう話が出てくるのではないかと思う。

病院の満足度

問 町民に信頼される病院であれば赤字もやむを得ないと思う。管内のある病院では、患者満足度調査を行い結果を公表して改善を図っている。町もぜひ実施してはどうか。

答 必要であれば実施する方向で検討したい。

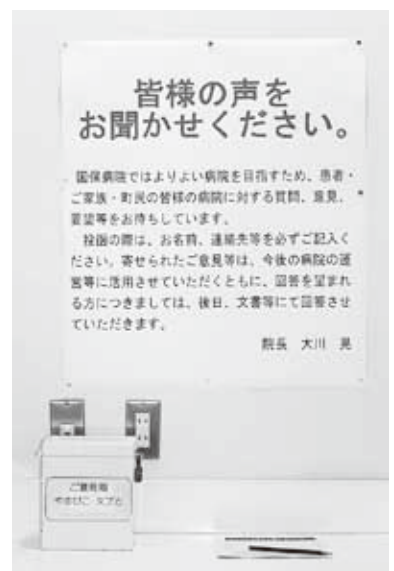
サロンへの出前講座

問 各地区での出前講座は24年度12回であった。業務をこなしながら日程を組むのは大変だと思うがもう少し積極的に進めることはできないか。

答 昨年は、物忘れ外来とくみ外来の啓蒙活動を主体として行った。来年度は医局と看護師とで新たなテーマをもつて再開したいと考えている。

患者への説明努力

問 医師の患者さんに対する説明は、もう一歩踏み込んだ話(説明)の仕方をしているような努力は。



病院運営に活用するご意見箱 (院内2カ所に設置)

答 患者さんのレベルに合った説明とカメラを渡すなど、医局、看護師を含めてきめ細やかな医療サービスを提供していきたい。

サンデー議会開催

第4回定例会は、12月5日から開催を予定しています。

また、8日(日曜日)はサンデー議会を予定していますので、ぜひ傍聴にお越しください。

※詳しい日程が決まりましたらチラシでお知らせします。

全国消防救助技術大会を終えて

士幌消防署

消防士 小野内章人さん
消防士 長沢拓也さん



おの うちあさと
小野内章人さん



ながさわたくや
長沢拓也さん

私達は、8月22日に広島県で行われた全国消防救助技術大会に、ロープ応用登はんという種目で出場することができました。

皆さんは、ロープ応用登はんという競技はご存じでしょうか？

ロープ応用登はんとは、土台、登り手の二人一組で15メートルのロープをどれだけ早く登るかを競う競技です。

登り手は、ロープに足を絡め上下に動かし、土台は、登り手の足の動きに合わせてロープを引いたりゆるめたりします。だいたいごみは、二人の息が合わなければ登ることができません。そんなチームワークが試される種目で、私達は全国大会出場を目標に4月から訓練に励みました。

多くの支えもあり、道東優勝、全道3位という結果で全国大会に出場できました。

小野内 章人

私は、今大会を終えて、職

場の上司・指導者・応援してくださった方々の支えがあり全国大会に出場できたと思っており、消防士としてのチームワークの大切さ、身体の故障を防ぐための自己管理や安全管理など、多くのことを学ぶことができました。

これは消防士として働くう

えで欠くことのできない能力だと思えます。私はこの経験で学んだこと、感じたことを消防生活で活かし、更に発展させ地域に貢献したいと思えます。

長沢 拓也

全国大会までの訓練では意

見の食い違いで言い合いになることもあり、大会が近づくとつい焦りと不安が大きくなりましたが、「全国大会出場」という、ゆるぎない目標があったからこそ、めげずにやりきることができたと思います。大会は1度のチャンスしかありません。その1回で全てが決まります。本番のために本気でぶつかり合い何度も試行錯誤し、積み上げてきた訓練により目標であった全国大会出場を果たすことができました。全国各地の救

助隊員が一同に集結し、日々鍛え抜いた救助技術を披露し、お互いの知識・技術の交換など普段、経験することのできない貴重な体験ができました。この貴重な経験ができたのは指導者をはじめ多くの方々のおかげです。この気持ちを忘れずにこれからの消防生活を頑張っていきたいと思えます。



9月に開催された第3回定例会の内容を編集し、1500号として皆様のもとにお届けします。

一般質問では、4名の議員がそれぞれに活発な議論を行いました。

定例会中に設置された平成24年度決算審査特別委員会では52件の質問がありました。紙面の都合上19件に絞り要約し掲載させていただきました。併せて、傍聴された方からお寄せいただいたアンケート内の質問にもお答えをしております。

12月開催の第4回定例会では、サンデー議会を予定しております。

是非とも議場に足を運んでいただき、議会に対するご意見・ご質問を頂ければ、これからの議会活性化へ更に役立つことができると考えます。

加藤 宏一